



國學院大學
栃木短期大学
栃木市平井町608
〒328-8588
TEL0282-22-5511
FAX0282-22-5743
編集 学報編集部

第163号

麴も麴ものかげ地に踊るかと
思ふまで澄みてあかるき
月夜となりぬ
『浪歌』 岡野 弘彦

短大の教育を支えた人々

理事長・学監 木村好成

学園の歴史は、昭和三五年四月の國學院大學栃木高校の開設に始まる。國學院大學の付属高校として発足したのだったが、経営が軌道に乗るのは三七年四月の三期生四八四名を迎えてであった。一期生一二九名、二期生は若干の減員となつて九九名。それが三期生で急増したのだつた。二年間の大学付属校としての教育実績が地域に認知されたものと考え、学園発足当初の計画を推進するために、栃木学園の設立申請を行った。三八年三月に認可され、学校法人國學院大學栃木学園の名称のもとに新たな出発をした。

その後は、四十一年に二杉幼稚園の設立、四十一年に本短大の開学と続き、今日の学園の姿の大凡がなつたのである。そして明年はいよいよ五十年という大きな節目を迎える。短大の開学は、学園の創立から七年目であるが、学園発足当初からの計画であつた。国文学科の設置は國學院大學の学統のうえから必然の決定で、家政学科に続く初等教育学科・日本史学科・商学科は、それぞれ設置時点の需要と学統を考へての開設だつた。



理花会総会で熱く語る木村好成理事長 学園教育センターで

は、二杉神社境内地を借用しての二杉幼稚園の開設。続いて、四大進学志望の生徒には國大への道が開かれているが、女子生徒の多くの進学のために本短大が設立された。

フルに活用されたのであつた。初代学長には國大理事長・学長佐佐木行忠理事長が兼務就任され、二代学長に高崎正秀元國大文学部長、後に岸本誠二郎・樋口清之・岡野弘彦・中村幸弘先生と続く。国文学科は当時の佐藤謙三國大文学部長の全面協力を得て、三年編入学のことも決まつたが、初代科長に高崎正秀文博士、二代科長は国語学の田邊正文博士が副学長を兼ねられ、佐々木巧一・統橋達雄・小林吉一・林田孝和先生と続く。家政学科長は初代元お茶の水大学教授木原芳次郎理博士・二代西原綾子医博士の後に菅原まさ・藤江恭葉博士・田部井トキ・右田節子・中間美砂子・北村奉正先生。初等教育学科初代科長は元東京教育大学教授の富田竹三郎・二代元埼玉大学教授遠藤泰助先生の後に大久保康彦・山口令司・大西秀彦先生。日本史学科長は初代樋口清之博士の後に須藤敏夫・下村效・田中正弘・酒寄雅志先生。商学科は初代水田博科長が副学長を兼ねた後、井田喜久治・服部正美・飯田晶夫・秋山誠一先生と続く。各学科

の教授陣は科長を中心にそれぞれの学生を懇切かつ熱心に指導してくださつた。

中でも忘れ難い方たちは、都合で途中離職なさつたり故人となられた方々である。開学当初の岸本芳雄教学部長・春田宣・荻久保泰幸・秋葉直樹・森昇一・中島繁夫・滝澤精一郎・白田甚五郎文博士と門下の野津龍・書道の司有中島壤治先生。図書館長を勤めた片山喜八郎先生は、短大では全国的に類い希な充実した図書館経営をされた。家政学科には大隈トミ・山口よしの・栗原澄子・田中敏江教授。初等教育学科には日本芸術院会員の彫刻家三坂耿一郎先生、美術の笹本克彦・音楽の新野仁助・大橋秀丸・内野裕子、体育の本多宏子。商学科小倉光雄・荒川恵美子、一般教養飯倉一郎、資格課程成田至・木野主計先生の名も浮かぶが紙数がない。やむをえず、割愛するが感謝と懐旧の念に変わりが無いことを申し上げておく。

平成21年7月26日、第42回
理花会総会での木村好成理事長の講演要旨である。

漢陽女子大學の学生38名が来訪

村山昌俊教授、大山尚准教授、奈良明美助手のほか、白山実事務長をはじめ春日洋、高森良友、仁戸部幸子、大島澄子、河野邊志保教育学部職員が参加

授、南芳公教授、

からは、中村幸弘学長、国文学科長林田孝和教授、岡本岱教授、千明守教授、塚越義幸教授、南芳公教授、

漢陽女子大學日語通訳科の学生38名と引率の李炳萬教授、李英敬教授、盧銀美助手は、6月22日18時過ぎに本学園に到着し、学園食堂で夕食を済ませた後、宿泊先の鍊成館に移動し、荷物を運び入れて一段落したところで、本学教職員との交流会が始められた。本学からは、中村幸弘学長、国文学科長林田孝和教授、岡本岱教授、千明守教授、塚越義幸教授、南芳公教授、

平成19年11月に教育・学術の交流促進を目的として韓国・漢陽女子大學と協定を締結後、2度目となる交流会が、6月22～24日の3日間、本学園で行われた。



日光東照宮陽明門前での記念撮影

した。最初に双方の教職員が自己紹介を行い、つづいて今年度の留学生である李銀柱さん、金正淑さん、李政珉さんから本学の学生生活について説明があった。その後の質疑応答では、韓国語でいろいろな話がなされていた。最後に千明守教授によるマジックが披露された。

2日目は、午前8時より、



本学園留学中の李政珉さんより話を聞く交流会の様子

631教室において小林吉一名誉教授による「日光東照宮を中心に」、林田学科長による「仮名の歴史」と題する日本文化講話が行われた。終了後、記念写真撮影し、教室後方に展示された源氏物語絵巻を見た。その後、石坂昌圀学生課長、高森学生課長補佐が同行し、バスで日光に向かい、二荒山神社中宮祠・華嚴の滝・日光東照宮を見学・参拝した。学園に戻り19名は夕食を摂って鍊成館に宿泊、19名は学園教職員15名の家庭に各々ホームステイをした。

3日目午前9時頃、学園を後にし、次の訪問地長野県に向かった。来訪した学生にとっては、栃木の生活を知り、日本文化に触れ、貴重な経験を積む機会となった。

平成20年度斯花会収支決算書

【収入】		(単位: ¥)
会費	収入	8,400,000
受取	利息	61,935
雑収	収入	270,000
前年度繰越金		72,571
合	計	8,804,506
【支出】		
事務費	費用	2,765,125
事業費	費用	865,150
積立基金		5,100,000
予備費		70,000
次年度繰越金		4,231
合	計	8,804,506

平成21年度斯花会収支予算書

【収入】		(単位: ¥)
会費	収入	7,770,000
受取	利息	50,000
雑収	収入	20,000
前年度繰越金		4,231
合	計	7,844,231
【支出】		
事務費	費用	3,350,000
事業費	費用	4,250,000
積立基金		240,000
予備費		4,231
合	計	7,844,231

7月26日、第42回斯花会総会・懇親会が、恩師教職員37名、会員51名が参加して開催された。



林田国文学科長の発声で乾杯

総会は午前11時から学園教育センターで行われた。幹事長の岡本岱教授の挨拶につづき、平成20年度決算報告と平成21年度予算報告がなされた。

第42回斯花会総会・懇親会開催

次に、「短大の教育を支えた人々」と題して、木村好成学園理事長による講演が行われ、短期大学の草創期から現在に至るまでにご尽力いただいた方々について話された。(講演要旨は一面に掲載)

会場をサンルート栃木に移し、懇親会が行われた。中村幸弘学長、木村理事長の挨拶につづき、国文学科長林田孝和教授の発声で乾杯となった。しばらく歓談が続いた後、司会の白山実事務長より母校の近況報告があった。全員で校歌を斉唱した後、矢田一則学園教育センター長の音頭による万歳三唱をもって閉会となった。

学科の特色をアピール 参加者増のオープンキャンパス

平成22年度学生募集、学内説明会は、6月4日の高等学校教員対象入試説明会からスタートし、9月6日の第五回オープンキャンパスをもって終了した。本年度の特徴は、教員対象説明会においてもオープンキャンパスにおいても、初等教育学科に保育士資格課程が開設されたことに関心が集まったことであった。

教員対象説明会

6月4日の教員対象説明会には、招待した栃木・茨城・群馬・埼玉県から39校41名が参加した。



平成22年度教員対象説明会の様子



家政学科「調理学実習」の模擬授業

オープンキャンパス

高校生徒対象オープンキャンパスは6月27日、7月25日、8月9・22日、9月6日の5回実施された。参加者は、生徒総計376名（同行者合計653名）であった。各学科の参加状況を平成20年度と比較すると、初等教育学科が2・47倍と急増、ついで日本史学科1・27倍と増加した。国文学科が同様、家政学科・商学科が減少した。本年度のオープンキャンパスは、事務局が中心となつて行う、参加者全員を対象とした総合ガイダンス以外は、学科の広報委員が主体となつて企画がたてられ実施した。

学科の特色・教育内容とその成果・模擬授業・該当施設見学など、教員と学生が一体となつて、参加者参加型で学科を印象づけるものが多かった。また、学生会が積極的に活動し、受付誘導から、学内見学、対面相談で、親身に参加者にアピールした。さらに、設けられた教育学部・個別相談コーナーには、就職支援のあり方や奨学金制度、学生生活の状況など、親子で質問に訪れた。

サマースクール

日本史学科「高校生のためのサマースクール」は、第三回オープンキャンパスに併せて8月7・8・9日の三日間、陸会館で開催された。



最終日、「よろいを着よう」体験して重みを実感

初等教育学科

夏期教育研修（二年生）

1年生に、教育者としての心を育て、鍛えるための「夏期教育研修」が、6月17日から20日に実施された。1日目は、教育現場の一日を实地に知るため、栃木市内の幼稚園・小学校で、登園・登校から降園・下校までの生活を観察した。学生はグループごとに、それぞれの教育機関長の講話を受け、授業・保育、昼食、清掃指導などの流れを、事前に設定したテーマにそつて体験した。その体験後、2泊3日の「あきやま学寮宿泊研修」に入った（指導者、大西学科長以下7名。学生42名）。研修では、前日の観察をもとに、グループ討議、発表を行った。そこでは教員から鋭い指摘もあり、四苦八苦する場面もあった。研修2日目、佐野市内の幼稚園・小学校で再度観察を行った。まとめの討議・発表は、教育の視点を捉えたものとなった。

教育の観察と参加（二年生）

2年生「教育の観察と参加」は、学生が、幼稚園・小学校

に出向き、出勤から退勤まで、一週間のスケジュールに身を置いて、教育現場を観察し参加するものである。本年は、6月15日～19日に実施した。

初教このはな会総会

6月13日、学園教育センターで、初等教育学科出身者が自身の教育技術の向上と、後輩への支援のためにもうけている「初教このはな会」総会・研修会が開催された。本年は「小一プロブレムにどう対処するか」がテーマであった。

初等教育学科講演会

7月15日、「りんちゃん見てて、センセイがんばるよ!」の演題で、38期生佐々木舞さんによる講演会が行われた。佐々木さんは群馬県内の私立幼稚園に就職して5年目。現場での経験をもとに幼稚園教諭の大変さ、すばらしさが語られた。先輩の話は、学生にとって身の引き締まる内容であった。



体験談を語る佐々木舞さん

新・図書館だより

1

『新図書館だより』というタイトルで新たに誌面を埋めることになった。

入学式後のガイダンスの一枠に、図書館の時間帯があったことを覚えておいでだろうか。限られた時間で取り敢えずの説明しかできないことに毎回思いが残っていたのだが、機会を得たので回を重ねながら図書館のことをお伝えする。

まず名称を『國學院大學栃木学園図書館』と言う。本学園の中学校・高等学校・短期大学の生徒・学生・教職員をサービス対象とする総合図書館の意味合いからも短期大学図書館ではなく栃木学園図書館と称する。

平生サービス対象となるのは、現在学園に籍を置く人達であるが、その他に学園全体の卒業生・退職者・國學院大學院友・学園に御縁の人・公開講座受講者・他機関からの紹介の人などサービス対象は多岐にわたる。

昭和41年、短期大学開学と

共に本格的に学術、研究を扶ける図書館としてスタートを切った。

その時から今現在も肝に銘じてきたこと。それは、「資料を一点でも多く集めること」「書物を媒体とするあらゆる質問に応えること」「求める資料がなかった場合入手のための最大の努力をほらうこと」「資料を見つけるための目録や索引類を豊富に用意すること」に加える大切なこと、「何よりも館員自身が生きた索引となるべく不断の研修を重ねること」これらの事柄を事実として現在も実行しているつもりだ。

豊富な資料とすぐ側に机。そして資料群を熟知した司書がいればそれで充分すばらしい図書館だと思う。司書は利用者の役に立つために存在し、それは常に受身で利用者からの問い掛けを待つしかない。どんな些細な事であっても司書に声をかけてみることで思わぬ展開をみることもある。

この学園に入学するまで、どんな図書館経験を経て来たか知ることはできないが、どんな不幸な図書館経験であっても只で本が借りられるという恩恵には与つてきたはずで、図書館が持つ機能の一つ「貸出」ということは承知と思う。何冊借りられて、何日で返すというような物理的なことに行を削くのはやめにして、方法についてはそれぞれそ気軽に尋ねてもらいたい。

本を借りる事と、冷暖房完備の貸机以外に図書館を頼つたことのない向に、ガイダンスで述べた「レファレンス・ワーク(参考業務)」について記してみる。わかり易く言う(と「書物」を媒体として研究・学習の補助を行う業務のことである。両者の間に介在する最初の資料を「レファレンス・ツール」と言う。このレファレンス・ツールはかなり充実した資料群で、次回からは解題という形でこれらの資料の紹介をする。

なお、これらの資料群のうち、基本的なものは、書架上に混雑せず別置している。

図書館長 太田映子

教育職員免許状更新講習に11名の受講者

本年度より始動した「教育職員免許状更新講習」を本学でも7月27日より31日までの5日間開講した。

初年度ということ、なかなか準備がおぼつかなかったが、開講されたのは必修領域12時間を1講習、選択領域は全教諭対象講習6時間を5講習と、教諭・養護教諭対象講習6時間を3講習の計9講習であり、学園教育センターの他本学理科実験室、美術室、音楽室、食品学実験室、二杉幼稚園等を会場にあてた。

受講者総数は11名で、遠くは千葉県野田市から通つて来た受講者もいた。予想では本学卒業生の受講者がもつと多いものと期待していたがそれほど多くはなく37名であった。講習修了後は認定試験も行われたが受講者11名全員に修了証明書又は履修証明書が後日郵送された。

受講者からいただいた「受講者評価書(アンケート)」の記載内容を十分吟味し、次年度以降の実施の参考としたい。

保育士課程開設により
完全セメスター制を導入

初等教育学科に「保育士課程」が開設されたことにもない、21年度入学生から全学科に完全セメスター制を導入した。これにより学年暦が今までとは大きく変わった。一番の変更点は、夏季休暇前に前期試験を終了してしまうことと、後期試験を一・二年生が同時に実施する2点である。

したがって、前期試験の結果も、従来の学内掲示での発表ではなく学生の自宅への書留便での通知とした。

そして追・再試験とその発表も休暇中に実施することにより、一年生に限定されるが、後期履修科目の追加変更も後期授業開始前に認められるようになった。

こうすることにより、自分の学習内容をセメスターごとに修正することができるようで、学生はこれを活用して一層充実した二年間の学びを積み上げてほしい。

プロフィール

佐藤勝章（さとうかつあき）
神奈川県川崎市在住
日本大学東北高等学校卒業後、
4年間一般職で勤務し、本学の
初等教育学科に入学。
平成19年卒業後、小学校講師と
して2年間勤務。平成21年4月
から、本採用として横浜市立東
市ヶ尾小学校に勤務している。

教師になるまで

私の今までの道のりは、高校を卒業するまではそれなりの順調な道だったと思います。

高校野球で活躍し、両親の期待にも応えてきました。しかし、体育の教師になりたくて体育大を受けますが、あえなく失敗してから少しずつおかしな方向へと向かっていきました。やる気がなく予備校は中退し、何となく仕事をしていました。別にやりがいがあるわけでもなく、生活するために働いていたという感じです。それが4年間続きました。ある日、父親からもう一度教員を目指してみないか、と言われました。短大なら2年で教員になれる。そう言われました。私はとっくに諦めていた教

員への道があることに気づき、もう一度目指したので。短大の先生には、本当によくしてもらい、教師とはなんたるかを一から叩き込まれました。それがかげがえのない愛情だと教員になった今だとてもわかります。

私にとつての短大2年間は、最高の時間でした。諦めていた学生生活を送ることができたし、教員としての土台を築くことができたからです。

教員になって

私は、講師の時も含め、今年で3年目になります。1年目、いきなり体育主任を任せられました。何もわからな



本学卒業後、福島県の小学校で常勤講師をしていた頃の佐藤君

生き生き卒業生 ②6

～すべては子どもたちのために～

第40期生 初等教育学科 佐藤勝章

いまま必死にこなしていることを今も覚えています。2年目は、体育主任と児童会主任を任せられました。仕事が激増してクラスの子どもたちに向き合っているのか不安の毎日でした。そして3年目の今年は、本採用ということで、初任者研修に追われています。忙しくて嫌になりそうな時もたくさんありますが、そんな時そういう思いを吹き飛ばしてくれるのが、クラスの子どもたちの笑顔と成長です。これがあ

るから教員はやめられない、とつくづく思います。子どもの成長した姿を目の当たりにした時は、日々大変さやつらさなど全く関係なくなり、「よくがんばったな」と抱きしめてしまいます。教員になってよかったと実感する瞬間です。

私はクラスで自主性を育て、自分の思いを表現できる子どもにしようと考えています。自主性とは、自分で考え、自分で行動することであり、私のクラスの係活動は、ほぼ自由に活動ができます。イラスト大会

やスポーツ大会も自由に開催しています。ときには、びっくりするような企画をもってくることもありですが、できるだけ尊重し、アドバイスをしながら開催できるようにしています。それが日々の楽しさに繋がっていいと思っています。学校は楽しいところではなくてはいけないと考えます。自分で考えた企画が開催されみんなが楽しめたらうれしいですね。子どもの思いを大切にしていこうというのが私のクラス作りのモットーです。

また私は子どもと遊ぶことも大切にしています。中休みや昼休みに、外に出て子どもたちとふれあうことで心をかよわせることができるからです。自分の小学校時代を思い出すと、休み時間に遊んでくれる先生が大好きでした。そんな先生に近づこうとしているのかもしれない。私は子どもたちが大人になった時に、いつまでも子どもたちの心に残る教員になりたいと思っています。

学生の皆さんへ

皆さんは短大生活をどのように過ごしていますか？まさか勉強ばかりしていませんよね？確

かに勉強も大事ですが、色々な経験をしたいと思っています。友達とどこかに旅行に行ったり、たまには夜遅くに馬鹿騒ぎしたりするのでもいいでしょう。そういった自分を身をもって体験したことが、生きた声となって子どもたちの心を引きつけます。行ったことのない外国の話をして子どもたちの心の奥には入っていないのです。今は無駄だと思ふことも、後から生きていくことがあると思います。とにかく多くの体験をしてください。

また、今の友達を大切にして欲しいと思います。教員の道のりは思ったよりも険しく一人ではどうにもならない苦しい時があります。そんな時に助けてくれるのが、同志である仲間です。悩みや思いを打ち明けられる友だちを作っておいた方がいいですよ。

最後に、國學院大學栃木短期大学の先生方は、素晴らしい先生ばかりです。机上の話ではなく、現場で必ず生かせることをたくさん学ばせてくれます。今学んでいることは、必ず子どもたちのためになります。先生方を信じて残りの日々を頑張ってください。

新・参考館だより 1

参考館のあゆみ

幅広い収蔵品
地域に発信する特別展

参考館内の展示品を鑑賞する多数の一般客

内容を広げ、設備を拡充して「國學院大學栃木学園参考館」として、睦会館一階に設置したものである。さらに平成4年、学園はこの参考館を生涯学習の創造拠点として、地域に開かれた活動をするため、博物館法に則った「博物館相当施設」の認可を得る準備をし、平成5年6月、栃木県教育委員会より「博物館に相当する施設」として認定された。これによって、登録博物館に準ずる博物館となると同時に館の事業等については社会教育的な配慮のもとに研究と活動を行うことがいつそう期待されることとなった。館の運営は、館長と三人の学芸員によって行われ、日常の本学教育の場とともに同時に一般市民にも公開されている。参考館の収蔵品は考古資料（石器・埴輪・

古鏡など）、歴史資料（古文書・古写経・神仏像・木簡など）、民具、郷土資料をはじめ、絵画・彫刻・陶芸作品など、幅広いものである。これをもとに、地域に発信する特別展「過去からのメッセージ（平成4年）、日本史学科開設二十周年記念企画展「新発見 栃木の乙女と大奥（平成18年）」「悠久の時を超えて〜原始・古代の栃木・大平（平成20年）」「現代絵馬の世界―絵馬に願いを込めて（平成20年）」を開催してきている。今年度は、写真のような「石器」を展示し、私たちの遠い祖先である原人や旧人の生活をふり返ってみたい。

学芸員 戸田正勝



ハンドアックス エジプト出土
この石器は石の表面に加工を施して使われたもので、原人が好んで製作した万能石器である。

お別れ

謹んでご冥福をお祈り申し上げます

清水 堯先生



昭和61年4月より平成11年3月まで、初等教育学科の教科教育法・理科などを担当いただいた清水堯先生が3月21日逝去された。享年83歳。先生は、昭和20年9月和歌

丸山彩子先生



家政学科で服飾手芸担当の丸山彩子先生が8月26日急逝

横本 宏先生



商学科で経済統計・データの科学等担当の横本宏先生が、

山師範学校を卒業後、昭和30年3月まで、和歌山大学附属中学校などにご勤務され、昭和30年4月より東京教育大学（現筑波大学）附属小学校に転勤。昭和61年3月、同校をご定年後、本学の教授に就任された。本学でも熱心に学生の指導にあたられるとともに、初等理科教育の発展向上のために、後進の指導にご尽力されていた。

された。享年70歳。本学へは、非常勤講師として平成5年4月よりご勤務いただいていた。先生は、元ガールスカウト県支部長、足利市女性団体連絡協議会会長など幅広く活躍され、多くの参列者に見送られていた。

9月13日急逝された。享年70歳。

先生は、明海大学経済学部教授として勤務。國學院大學経済学部の非常勤講師をお勤めの縁で、本学へは平成6年4月よりご勤務いただいていた。

◆ 平成21年度 夏季休暇中研修・サークル・ゼミ活動報告 ◆

所 属 名	人 員	期 間	活 動 内 容
家政学科1年生 養護教諭課程	22	8.7	臨床検査 講義と心電図・尿検査の実習(養護実習室・633教室)
日本史学科1年生	44	8.7	史跡調査 史跡金山城跡・太田天神山古墳等(太田市)
日本史学科2年生 日本史コース	38	8.7～9	古文書調査実習 古文書の整理と目録作成(444教室)
日本史学科1年生 文化・美術史コース	6	8.8	群馬県立歴史博物館の見学
初等教育学科1・2年生	26	8.8	教員採用試験のための水泳研修(栃木市サンプラザ)
初等教育学科1年生 幼・保コース	10	9.4	さくら保育園・ひのきの杜の見学と観察
自然と環境	25	9.8	フィールドワーク 日光植物園・栃木県立博物館の見学
歴史民俗フィールドワーク	16	9.9	鷲宮町立郷土資料館・鷲宮神社の見学
家政学科1年生 養護教諭課程	23	9.10	栃木県立栃木特別支援学校の参観と研修
日本史学科2年生 考古学フィールドワーク	35	9.15～22	栃木市円通寺遺跡発掘調査(鍊成館)
初等教育学科1年生 幼・保コース	14	9.18	たいよう保育園・養徳園の見学と観察
初等教育学科1・2年生 有志	38	9.25	岩舟町立小野寺南小学校での表現活動交流会
日本史学科1年生 学芸員課程	29	9.25	栃木県立博物館実務見学
国文学科1年生 民俗文芸講読(郷土文芸)	25	9.26	文学散歩 室の八島・三森山・唐沢山神社・村檜神社等
日本史学科2年生 学芸員課程	34	9.26	佐野市立郷土博物館・栗田美術館実務見学
民俗学研究会	9	8.9～10	生品神社参拝・新田氏ゆかりの地の見学(ホテル古久三)
美術工芸部	10	8.10～11	七宝焼き・作品制作(鍊成館)
コーラス部	20	8.10～12	定期演奏会の練習(丸沼高原スポーツガーデン330)
近世史研究会	4	8.11	江戸東京博物館見学
中国語研究会	13	8.16	神田古書街・ニコライ堂・神田明神・東京国立博物館等の見学
東洋史研究会	11	8.16	神田古書街・ニコライ堂・神田明神・東京国立博物館等の見学
古代史研究会	8	8.23～25	京都・奈良の名所旧跡見学(京都タワーアネックス)
写真部	6	8.26～27	鎌倉・お台場写真撮影研修(鎌倉東横イン)
近世史研究会	9	9.1～2	岐阜高山・郡上八幡散策(高山穂高荘)
近代史研究会	8	9.2～3	会津若松市内の見学(ホテルルートイン会津若松)
コーラス部	10	9.11～12	定期演奏会の練習(鍊成館)
バドミントン部	29	9.14～16	バドミントンリーグ戦・紅白戦(とちぎ海浜自然の家)
考古学研究会	35	9.15～22	栃木市円通寺遺跡発掘調査(鍊成館)
中世史研究会	8	9.17～18	岐阜市歴史博物館・安土城等の見学(彦根ステーションホテル)
落語研究会	10	9.22	落語の鑑賞(新宿末広亭)
ソフポート部	14	9.24～25	技術向上と部員間の交流(鍊成館)
寺崎ゼミ	6	8.31～9.2	ゼミ論文の発表会(草津町中沢ヴィレッジ)
堀江ゼミ	14	8.31～9.3	ゼミ論文の中間報告会(伊藤園ホテル鬼怒川グリーンパレス)
酒寄ゼミ	5	9.5	卒業研究の中間報告会(日本史第1研究室)
中塩ゼミ	7	9.13～15	ゼミ論文の検討会(スーパーホテル横浜・関内)
千明ゼミ	24	9.14～15	鎌倉の平家物語関係の史跡踏査(あじさい荘)
佐多ゼミ	5	9.17～18	岐阜市歴史博物館の見学(ホテルキヨシ名古屋)
伊藤ゼミ	6	9.17～19	明日香村廻り(明日香村民宿)
田中(正)ゼミ	12	9.25	卒業研究の中間報告会(日本史第1学生指導室)
坂本ゼミ	8	9.25	卒業研究の中間報告会(343教室)

事 報

■ 行事・集会 ■

6月1日 国文・家政・日本史学科2年生教育実習(養護は20日まで)

27日 高校教員対象入試説明会

4日 1年生観劇会

6日 初等教育学科2年生教育の観察と参加

15日 初等教育学科1年生幼稚園・小学校観察

17日 初等教育学科1年生あきやま学寮宿泊研修

18日 初等教育学科1年生あきやま学寮宿泊研修

20日 7月25日・8月9日・22日・9月6日 オープンキャンパス

25日 前期授業終了

26日 新学生会総会

27日 集中講義・補習講義

30日 集中講義・補習講義

31日 教育職員免許状更新講習

31日 8月27日 前期試験

7月7日 9月27日 夏季休暇

8月7日 日本史学科高生校生のためのサマースクール

9日 前期試験結果発送

12日 集中講義・補習講義

10日 前期追・再試験

11日 後期履修届提出

19日 後期授業開始

28日 後期授業開始

● 本書および関係者出版紹介

○河田美恵子教授共著「楽しく挑戦就職活動」―受講から就職面接の受け方、内定、職業人の心得まで―学文社刊

○15期家政学科卒 小林千枝共著(子どもの危機と養護教諭の仕事を考える会)「危機の思春期 再生の思春期」―寄りそう保健室の記録―草土文化刊



母親から育児に関する話を聞きながら
乳児の様子を観察する学生たち

平成21年3月、初等教育学科に、保育士養成課程が認可（厚生労働省）され、同年4月第一期学生25名が入学した。養成理念は、時代認識の変化に即応した実践力のある保育士を育成することにある。保育の質は保育士の資質にあると称される。さまざまな視座にたつた観察力・判断力や行動力が求められる。そのため本学では、1年前期から体験・実習指導の体制を整えて養成にあたっている。

保育士養成課程 郷土のぬくもりに育まれる学び

地域の母親から学ぶ 保育交流会

特色ある保育実習にむけて、地域における子育て支援の実像を知る体験として、保育実践を視野にいれた交流会を年間6回計画している。交流場所は保育実習室、毎回二時限（10時40分～12時40分）、協力者は地域の子育てまっただなかの母親とその子どもたちである。第一回交流会、7月13日は、第二子、第三子を出産された、子育て経験豊富な4組の母親と乳幼児（0歳児から4歳児）と課程学生が昼食を含めて触れあった。初めて経験する学生には、乳幼児の個の発達と母子の関係性を捉える貴重な体験であった。お母さんの子育て講話では「子育ての喜びや苦労について」なまの話を聞き「親思う心に勝る親心」を知った。第二回は、9月30日、第一子を出産された母親と六か月ぐらいの



母親が持参した離乳食を、学生が乳児に
食べさせている実習風景

保育園・施設体験

乳児4組に協力いただき、講話では「出産前と出産後の子ども観の変容」について聞き、赤ちゃんを抱く、あやす育児体験を行った。

夏季休暇中の9月4日・18日、保育実習事前指導の一環として、栃木市・岩舟町・さくら市にある保育園・知的障害者更生施設・児童養護施設で体験・観察を行った。集団の中で個の発達や集団による発達と他児・他者や保育士との関係性を捉えるため、学生たちを場面にあった現場に導くなど、施設関係者にはた

いへん配慮いただいて、保育生活の営みを十分に体験できた。学生は、乳幼児の学びにたけた意欲に圧倒されると同時に、夢中に一途に興味あるものに向かっている姿から人間がもつ本来の性質を知ったことと思う。また、対象となる年齢の乳幼児等に触れることさえ戸惑いや躊躇をおぼえる自分に気がついたようである。（協力していただいた、栃木市『さくら保育園』、岩舟町『ひのきの杜』、さくら市『たけのこ保育園』、養徳園）には紙上から感謝申しあげる。）

両体験から、子どもの成長に与える影響を、環境や対子どもとの関係性の観点から包括的に学ぶことができた。同時に、保育士の役割、専門性も思索できたと思う。保育を学ぶ課程では、自身を問い直し、自身の価値を再考し、自身を成長させることができる。なにより、地域から甚大な助力を受け、この尊い体験ができたことに感謝したい。学生は、この地で保育を学ぶ者として、郷土の保育の魅力を存分に探求してほしい。

講師 石川昌紀

もつこころ

平成二一年の大相撲九月場所。終わってみれば、モンゴル出身東西横綱の十四勝一敗相星優勝決定戦、結果は西横綱朝青龍の史上三位となる二四回目の優勝。三賞力士も、優勝力士を倒したのは東横綱白鵬だったから殊勲賞に該当者なく、技能賞に西前頭三枚目モンゴル出身鶴龍十一勝四敗、敢闘賞エーストニア出身関脇把瑠都十二勝三敗であった。大関以下の日本人力士で勝越したのは東西前頭五枚目までなく、豪栄道十勝五敗・豪風九勝六敗期待の東関脇稀勢の里七勝八敗・西関脇琴奨菊六勝九敗で負越し、大関昇進は当分ない。なぜ日本人力士は外人力士に勝てないのか。ハングリー精神に欠けるからといわれるが普段の稽古にそれほどの差はないと思う。感じるのは仕切ったからの立合いの悪さ、思い切りのなさだ。相撲は無心で勝負に挑むことが肝要。嘗ての名力士横綱大葉山は立合いに待ったをしないことを生涯貫いた。勝ちたい勝ちたいで、立合いの駆け引きに心を乱しては絶対に勝てない。（好